(大正十一年八月二十日 第三種郵便物認可)　昭和九年六月十五日　磐城新聞　(金曜日)　第四千五十號　(一)

夕刊 磐城新聞
六月十四日發行
(日曜祭日翌日休刊)

東京から

文部省の天下り的人事移動

相川幸雄

廣島文理大學長問題は學長武部氏の辭表提出に依つて紛糾は一層擴大され文部當局の天下り的人事移動は益々その失態を曝らすに至つた。武部氏が僅か一日にして辭表を提出したことは文部省の形式主義一點張りの見地から見れば輕卒として非難されるであらうが學園の紛爭、反對を前にして辭職を決意するに至つた武部氏の誠心を諒とすべきであらう

×

齋藤內閣成立以來、學校騷動と教育界の醜事件は、京大及び長崎醫大事件を初めとして各府縣に擴大され枚擧に遑ない程である。教育革新の必要は今更言を俟たないことながら齋藤兼攝文相の省內刷新の期待もここに於て全く裏切られた結果となつた。然も部下の二局長の醜き暗鬪に對する責任逃れや、御都合主義に依つて、教授學生の反對を抹殺し、天下り的に任命したことは教育の府文部省の救ひ難き失態であらねばならぬ。京大事件以後文部當局の學校に對する態度は著しく硬化し、常・對立的高壓新政策を以つて學校刷新、教育淨化を主張して來た。今回の武部新學長の辭任問題に於ても學校當局及び學生の希望は全く一蹴され、網紀問題の責任も凡て單なる天下り的人事移動に依つて解決せんとするが如き拙劣なる權力行使を犯してゐる

×

粟屋文部次官は『學生が學長や校長の任命に對してかれこれ云ふのは以つての外で、輕擧妄動は嚴に愼むべきである』と語つてゐるが、これは單に教育の根本を無視した官僚的無責任を紛飾してゐるに過ぎない。勿論この言葉をただそのまゝに受け取つたならば正しいかも知れぬ。然しそれは當を得た學長教授の任命であり、眞に學生のため、又は教育のために行はれた場合を前提として初めて云ひ得ることである。適不適さへも考慮することなく情實や責任逃れのためにする人事移動に對しては全く無意味であることは勿論である。むしろこの場合には學生の眞純なる期待を徒らに權力を以て彈壓せんとする態度を明白に物語つてゐるものである

×

今回の紛糾の起りは次官の椅子をねらつて暗鬪する二局長の移動に端を發してゐる。この解決のために先づ渦中の人關谷社會教育局長を國民精神文化研究所長に轉任せしめ、昨年來辭表提出中の廣島文理大學長吉田氏の後任に武部普通學務局長を据えんとした姑息なる人事政策の破綻である。これは長く省內に胚胎せる官僚腐敗及び政黨的對立抗爭の混亂せる內紛に基因する二局長の背後にも政黨の觸手があると云はれ、教育界刷新淨化の叫ばれる今日文部省內に於けるかゝる腐敗と暗鬪とは單に關谷次官の無定見のみならず文相、更らに內閣の責任であることは勿論であるが、これは現教育制度自體に迄切り下げた淨化の斷行に依つて初めて解決される問題であらう

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『靄』　青葉露子

天○しつとりと青葉に靄の立ちこもり、心靜かなり山鳩の聲

靜寂の裡にとけ込んだ秀歌である。四句が効いてゐる。

地○朝靄の靜かに晴るゝ山の氣を、しつとり吸ひて若葉ゆれをり

可成多い材料をよく歌ひこんでゐる。

草野みどり

地○池の邊に田植つゞじの花咲きて、薄靄たちし庭は明るし

『靄と明るさ』實際の情景に接しなければから歌はれない。

赤井嶽男

人○このあたり鋪裝道路になるといふ、街燈は靄に濡れて泣いてる

近代人の有つ感覺で歌はれてゐるのは嬉しい。

荻原たけ

人○まだき野は朝靄ほのにたちこめて、なほ夢ましく蓮華草咲く　(紫雲英)

夢の樣に美しい作である。

うしほのこゑ

ソーダ水泡生みやまず滅りにけり　渡邊武門
水差してあふるゝ菖蒲湯に浸る
風呂煙り新樹の中に上りけり
雨晴るゝ陽光りけり新樹にまぶしけれ
菖蒲湯に再び甕をつかりけり

御廐の廣井鷄舍を尋ねて　赤羽松堂
若葉風折々およぶ鷄の陣
その途上
蕎麥や麥の穗並のゆれやまで
山の雲みなきれて薄暑かな
蠶莚を洗ふ薄暑の小川かな
畦築の土のかはきし薄暑かな

○雜詠　天野雨山選
風少し土筆に淡き影のあり　松堂
深山木の芽吹きそめたる四月かな
春蠶や湧きては消ゆる雲低く

ひとつらの土筆伸び居る築地かな
牡丹散るや旗手の雲のみな低く
鉾杉のもとの水車やほとゝぎす　武門
春陰や水にうつれる人の影
いまおつる入陽のもとの轍かな
春陰の庭匂ふなる丁子かな　石城
木の芽風木の芽の垣につのりけり
海苔そだの乾く匂ひや風つのる
葉櫻や朝をすがしき池の面　長貴
せゝらぎの音の中なる河鹿かな
朝窓に倚りてすがしき花菜かな
菜花道つゞける丘の社かな　水明
苗代の人澄み切つて夕茜
祭果てゝ社頭靜かき落花かな
蝶二つもつれゆきたる菜畑かな　晚霞
雷雨止みし日雨傘をかざし行く

せうきさま　高月生

鬼をひしいだ
せうき樣の
靴が大きいな
僕等のからだは入りそうだ
空は青い

社會の今日

6月15日 △北條泰時歿す(仁治三) △米國首府をワシントンに移す(一、八〇〇) △昌平校を大學と改む(明治二) △東京外語盟休首謀者十一名を退學處分す △臨時議會閉院式(昭和七)

○

刈りこみし門の生垣またのびて、梢そろはずなりにけるかな　落合直文

名も知らぬ虫も交りて夜店の灯　秋星

講談

浪人長屋 (111)

日岐武志作　月草道子畫

戀の地獄

いつしか、手を握りあつたまゝおそろしい程默つてゐた夜が幾晩かつゞいた

何か、いへば、最後である

戀――

一言でも、どちらかゞ口に出したら、堰かれた戀の波がどッとほどばしり出るのだ

どうしたらよいか

鐵彌は、日夜なやみつゞけた。この峠の彼方は信州である

追分には母や妹小菊がそして靜香がゐる

別れる時、靜香からおくられた守り袋は、鐵彌の肌から片時もはなれずにゐる

傷が、日増に癒つてゆくにつれて、鐵彌の、お蝶の二つのこゝろが病んで來てゐた

――どういふ、過去を持つて、どういふ道を踏んで來た女であるか

鐵彌は幾度となく考へた

上けれど、じぶんの身のについて、お蝶は

『かなしい運命の女なんです。きかないで下さいまし いつか折があつたら、きッとお打明けいたしますから……』

といつて、いつも、えん然と笑つて、まぎらはしてゐるお蝶

――とにかく、じぶんと同じやうに玄內を仇敵として、探してゐることだけはわかる

もう一つ、鐵彌には分らない秘密をお蝶は持つてゐる

というのは、毎夜、丑滿時の眞夜中に、きまつてお蝶の姿が、しばらくの間消えてしまふことである

厠へゆくにしては時間がかゝりすぎる。といつてこの深山の谷底、たづねる家は附近に一軒もない

――どこへ、何をしに行くのだ……

鐵彌は、後をつけてみようと、幾度も考へたが、惡いことを犯すやうな氣がして、差控へてゐた

夜が更けた

けたゝましく吠える山犬の聲が森閑として谷底の冬の夜を搖する

ばう、ばう、ばう……

凍るばかりの月夜を、吠つゞける

屛風を境にして、休んでゐたお蝶は、今宵もまた、しのびやかに起き上つた

緋縮緬の長襦袢一枚、しん〳〵と凍る眞夜中を、どこへ行くか、お蝶はそッと出て行つた

鐵彌はむッくりと起き上つた

『おもひきつてつけてみやう』

お蝶は、どこへゆくつもりか

鐵彌が、そッと、障子をあけたときは、お蝶の姿はもうそこには見當らなかつた

『おやッ』

厠へ行つた樣子でもない

凍るやうな月夜だ

キラキラと、雪が金砂のやうに輝いてゐる。ぞッとするやうな寒さだ。風もない

『どこへ行つたのだらう…』

鐵彌はいぶかしげに、つぶやき乍ら、ふと庭先に目をおとすと雪の上にしるされた草履の跡が、椽下から家の横手の方へつゞいてゐる

『うむ』

鐵彌は、そこに脫ぎ捨てゝあつた草履をつッかけると、その足跡をたどつて家の横手の方へ廻つてみた

そこにはお蝶の姿は見えぬ

草履の跡は土橋を渡つて小川に沿うて雪の小路を林の方へつゞいてゐるらしい

『よしッ、何處までも突きとめてやらう』

鐵彌は、さう決めると急いで橋を渡つた

廣告

技術本位
安心して御依賴下さい
時計修理
平才槌小路
高橋時計店
(小店員募集)

先に福島縣第一車を入れ大方皆々樣の御試乘を願ひ御好評にあづかりましたニーアクション裝置の第二車が又昭和タクシーに入り、いよ〳〵皆々樣に本日よりデビユウしました。何時も皆々樣の忠實なる御供昭和タクシーに御用命願ひます。遠乘御回遊等は特に御相談に應じます。
平驛前
昭和タクシー
電話三四三番、三四〇番

御節句の御引物には
丸共の漆器を是非に!
漆器專門の(共)は
在庫品の豐富と――品質の正確! 値段の破格
懸命の奉仕をモットーとして飽迄御期待に添ふやう勉强致します
各國產專門卸部
(共)漆器店
平町三丁目北裏通り

外科全般
特ニ內臟外科及ビ內、外、兩域疾患
醫學博士 渡部義夫
小兒科、內科
女醫 渡部きい
入院應需
渡部外科
平町役場前、電話(二七七)
診療午前八時ヨリ午後九時迄

うちみ
ほねつぎ
くぢき
專門
正効膏
醫學士 大河內一郎
平町才槌小路四

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
院長 醫學士 金森五郎
電話九二五番
入院隨時

內臟外科一般
外科花柳病科
(入院隨意)
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三一〇九

夜間診療
胃腸性病
內科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電話一〇七番)

東京株式取引所
短期 實物 取引
(治)角治商店
電話茅場(66)二二七一 二二七二 二二七三 二二七四 二二七五 三四五五 三四五六 八四 四六六五
東京市日本橋區兜町一ノ四 電略(カ)又ハ(カクチ)

公社債、株式現物 賣買
(治)角治株式店
平町本町三丁目 七十七銀行隣り 大谷時計店裏
電話七三番
株式日報 營業案內 御報進呈
主任 山田芳藏

女子店員募集
年齡十七才ヨリ廿三才マデ
高等小學卒業程度
御希望の方は履歷書御持參御來談下さい
委細面談
日東商會
平町二丁目 電話四二八番

內外建築材
建具材
(入)阿部材木店
磐城國平町(公園下)
阿部好利 改メ(平)
電話四九四番

磐城共濟病院 (福島縣平町 電話六四一番)
內科 小兒科　院長 醫學博士 石山謙郎 電話六四一番　部長 岩手醫學士 平賀一忠
產科 婦人科　副院長 醫學博士 五十嵐雄二 電話三七〇番
外科 耳鼻咽喉科　部長 醫學士 坂本眞一郎
皮膚泌尿器病科 花柳病科　部長 醫學士 前澤正 電話二七二番
X光線科 物療科　醫學博士 石山謙郎　技手 石山彪
衛生試驗所　獸醫 高後利雄
藥局　藥局長 藥劑師 吉本孝平　事務長 鈴木寶雄
◎毎日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始(毎夜午後十時迄)
◎病室完備 入院隨意

助役流産の大原因は『高級』なる冠稱の祟り
此際粹に碎ける必要がある＝と 心ある一部町民の觀測

平町の所謂高級助役問題は何處へ行つたか？未だ尚は餘温がさめぬとあつて行衛不明になつた之の問題に對して人皆何れも暗中摸索の態である、由來今を遡る約半世紀の昔明治二十二年八月十三日付を以て設定された助役に關する條例は

第一條　本町は町村制第六十條但書により助役の定員を二名と定む
第二條　本町は町村制第六十一條により助役一名を有給吏員とす
第三條　助役の順序は名譽職助役を以て上席とす

とあつて之に基く名譽、有給兩助役の對立は、就任や途中辭任等の關係から必ずしも其の任期を同じうせぬが

明治二二―二六（名）松本與三郎（有）滌原昌徳
二五―三〇（名）藍至重（有）祭主治英、二八―三二（名）龜田惟威（有）會田敏、三二―三四（名）祭主治英（有）鈴木淸靜
三九―四三（名）小山祐五郎（有）吉田三郎、四三―大正七（名）吉田三郎（有）荻野迷

と前後約三十年に亘り、却て內外事務漸く繁激を加へ來つた大正八年以降は

伏見彦衛、佐藤要四郎、遠藤長誠、酒井寅之助

諸氏の有給一人を以て今日に至つたもので、事務の分量に反比例する現助役一人制は驅つて以て助役二名の舊制に還元せしむるの機運を作つたもので之が增員に就ては其間何等研究の餘地無きに拘らず、尚且つ過般の流産を招いだのは前記條例第三條の所謂『名譽助役を以て上席とす』の文字に拘泥し一たび之を話題に上す事毎に『高級助役』なる言葉を以てし、その人材を物色するに當つて勢ひ評價の標準をより高所に求かしむる結果となり彼此纒まりがつかなくなつた嫌あり今後該問題の圓滿なる解決を望まんとするには此際斷然『高級』なる優越的冠稱を撤廢し、現助役と同水準に目標を置き須らく之が同意を求むべく人心を收攬するが肝要である。と心ある町民の觀測である

春繭相場廿七、八圓
四倉、植田開市近づく

地方の春蠶は愈々郡下のトップを切つて明日あたり收繭する大野をはじめ小川が目下上簇近で川前山間部方面は玆一週間後であり平地方は今日あたりが上簇最盛季にある等何れも出廻りに近ゝにあるが四倉市場では過般六萬圓の融資を受け來る十八日より植田では廿日より何れも開所すべく準備を進めて居る、因に當初相場は依然二十七、八圓位であらうと

頭打ちの形から再び炭價恢復へ
調節改訂協定成る

現行送炭調節方法改訂に關する石炭礦業聯合會其他の會談は十一日に引續き十二日午後一時より丸の內工業倶樂部において開催、次ぎの如き協定に達し圓滿解決を見た

一、調節を需要（十月より三月に至る六ケ月）不需要（殘餘六ケ月）の二期に分割實施の件は可成速に實行のこと

二、右の根本原則に基き先づ暫定的に本年六月より十月に至る五ケ月間に聯合會は現行月割調節高より每月二十萬廸宛合計百萬廸を減額打切のこと、但し需給の模樣次第にては今後において適宜緩和し得ること

三、互助會においても之に順行して右九ケ月間に一月約二萬七千廸を減額す

四、互助會石炭を昭和會社名義において九月迄に十五萬廸以內買入のこと、但し五千五百カロリー以上のものに限る

かくして互助會側の提案は大体において殆ど全部貫徹を見たわけで之により聯合會本年度調節高は百萬廸を減額二千二百六十六萬七千七百二十六廸となり貯炭の增加も緩和さるべく最近頭打ちの狀態にあつた炭價も漸次恢復されることゝならうしかし他面に於てはかように猶の目の如く變る調節の改訂により石炭業者のうける不利打擊も甚大なるものがあらう

平三小學公開教授
參觀延四百卅一名

平町三小學校の公開教授は既報の如く昨十三今十四の兩日を期し一齊に行はれたが參觀者數は

十三日

區分	第一	第二	第三
一般	三七	六五	五三
他教員	二六	三八	二七
計	六三	一〇三	八〇

十四日

區分	第一	第二	第三
一般	二六	四二	三七
他教員	二七	二七	二六
計	五三	六九	六三
合計	一一六	一七二	一四三

で合計延四百三十一名內一般二百五十九名の多數に上つて居るが、右は延人員で實人員は相當低下すべく學校では之れ以上の參觀を望んで居る

三（磐中）對一（平商）の成績で
今野球シーズン閉幕

磐中二勝平商一勝後の兩校野球決勝戰は昨十三日午後四時より磐中先攻で同校グラウンドに開催したが兩軍共に投手石川（中）赤坂（商）にコントロールなく磐中は遊擊手の失策に徒らに點を許し攻擊に於ては多くのチヤンスに惠まれ乍ら後援續かず平商はその健腕健棒を謳はれて居る名捕手森君の負傷全治に至らず出場不可能のためチームワークに缺陷多く兩校共に今一息の感を抱かせたが結局左のスコアで平商惜敗した

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
商	4	0	0	0	0	0	0	0	2	6
中	1	0	2	0	2	1	1	0	0	7

これで今シーズン兩校の戰績は三對一となつた譯である、右に就いて兩校では語る

磐中樋口部長談　打擊に一段練習の必要を痛感した

平商宮澤部長談　チームワークさへ取れゝば一段の進歩を見せるものと思ふ

尚磐中では今十四日鐵道と、平商でも二十四日は水戶へ遠征茨工、水商と對戰すると、尚平商の森選手は十七日の濱三郡四中等學校リーグ戰には出場し得ると

。。磐中校長上福。。　磐中小檜山校長、豐口野球部副部長は明十五日福島中學で開かれる各運動部縣下大會の豫算協議の縣下中學校長會議に出席のため今十四日出福

。。三大炭鑛庭球。。　磐城、入山、古河の三大炭鑛庭球大會は諸種の都合により延期されて居たが愈々來る十七日午前八時から磐炭高坂コートに於て開く事に決定、何れも猛練習中

燦たる優勝旗を繞り
第六回軟球制覇接戰
來月一日磐中コートで

磐城軟球協會主催魁文堂、マルトモ、大塚各運動具店後援第六回軟式庭球優勝旗爭奪大會は來月一日の日曜（雨天の際は次日曜）をトし午前八時から磐中ＡＢコートに於て開催さるゝが會則要旨次の如く會費は一圓で來二十五日迄に平町四丁目和泉屋旅館內協會宛申込まれ度いと

一、優勝旗

一、優勝旗は本會主催優勝旗爭奪軟球大會に於る優勝（チーム）に次の大會迄保持せしめ次の大會の初頭に於て保持チームより大會々長の許へ返還せしむるものとす

一、優勝旗には優勝年度優勝チーム名及優勝者の氏名を主催側に於て順次別布に書入るものとす

二、大會

一、本大會出場者は關東北各チームを代表せる選手四組以內とす

一、本大會に於ける組合方法はトーナメント式による

一、本大會に適用するルールは日本軟球聯盟のルールによる

投槍
投書歡迎

・土木委員に御願ひ・

◇位置なら賑ひなら斷然町の心臟部である銀行の四つ角附近は平町の初夏を見よ。極彩色に塗り上げた情調の天地ではあるが、櫛の齒を挽く如き自動車、自轉車の脅威を受くる點に於て理想的な漫步街と云ふ事は出來ない

◇そこへ行くと場所の偏在や附近に人をして無けなしの財囊を叩かせては濟かね魅惑的（？）な食ひ物屋の色電氣やシャツの騷音こそなけれ、空地の儘になつて居る以前の警察署邊は此れから夏へ掛けての遊步地帶として誠に理想的な場所と云つて良い

◇何事にまれ　先立つものは金であるが、櫻に躑躅に春以來氣持ちの良い程氣前を見せた町では此所に一個の照明裝置をなし、色んな露店を該地點に集中して一は營業者の爲に廣汎な地域を提供し同時に爽涼の宵を享樂せんとするに好個の綠地帶を與へてはどうか

（紺屋町夢遊生）

負けた腹癒せの放火爺陪審辭退
近く平支部で公判開廷

殴られた鬱憤晴らしに相手の物置小屋に放火した磐崎村大字藤原字忠田一〇農高木善吉（五八）に係る事件は過般豫審終結して福島地方裁判所の陪審裁判に附されたが先頭陪審を辭退、平支部に於て公判準備中であつたが愈々來る十九日準備訊問あり二十六日頃中島裁判長係り、淸田檢事關與、山野邊北川兩辯護士立會の下に公判開かれると

背に腹は替え難く坑內水を使用か
田植に苦惱の玉川村民

暦面の梅雨に入つて既に三日目、今の處どうやらカラ梅雨らしく、田植えに當面して昨今弗々水不足の噂が行はれてゐる、殊に例年若干の降雨があつてすら尚ほ灌漑水に事欠き勝ちな玉川村附近では唯一の水源地たる藤原川が著しく涸渴して同川の中心點をなす磐崎村大字白鳥地先の瀨打橋、同愛谷川橋附近は僅に凹所に餘の水が瀦溜するのみで河原一面燒け石となつてある慘狀で之に當面の灌漑水を仰ぐ事は差當り全然絕望の形ちである、一面鑛に鑛毒が含有するとて之れが補償の救濟のと下流の玉川村一部から騷ぎ立てられた入山の坑內排水に淵源する湯川が磐崎村大字西鄕字落合に於て合流するや其所迄殆と水氣を失つた藤原川は一躍して淸冽な水を湛ふる立派な河川の形態をなし同村大字下船尾萬年堰は一望漫々たる淸水を湛へ下流の灌漑に何等支障無きを物語つてゐる、而も同堰の水に仰ぐ灌漑工作は下流關係農民にとり眞に咽喉から手が出る程の必要に迫られてゐるが今尚ほ折衝中なる鑛毒補償の手前上直に之によつて灌水する事も出來ず玆許痛し痒しの態であるが不幸にして一兩日中尙ほ降雨無き場合に於ては鑛毒の何のと云つては居れず、われと前言を取消す樣な結果に陷り乍らも已む無く之の水によつて當場の急を凌ぐ事になるではないかと觀られてゐる

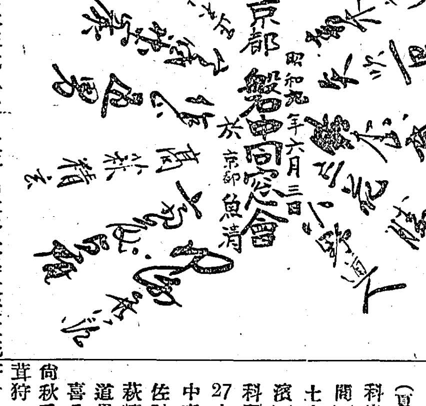
一宵の加茂川べりに 鄕黨水いらずの集ひ
磐中時代の昔に還つて＝心ゆくばかり讙酒歡談の淸興
薫る風

◇初夏の一宵　加茂の川風かほる木屋町魚淸に於て在京都、磐城中學同窓會を開いた。頂度、鐘紡岡山工場長たりし、鈴木正武氏が今回京都支店長に榮轉し來たので、その招待を兼ね開いた譯である。特に、平町から野崎喜八郎君が出席されたので一同大いに喜こび

歡談盡きず

◇磐中の思ひ　出、故鄕の話などそれからそれへとつゞき、こゝは磐城の別天地と化し、さしもの京美人も啞然たる有樣であつた。來年から磐中の修學旅行團は、鈴木さんの心盡しで東洋一といふ鐘紡の食堂（一度に三千人がたべられるといふ大食堂）で晝飯の馳走するといふ事になつたから

◇來年の旅行　團は幸ものといへる、野崎君も眞下に加茂のせせらぎを聞き、前方に布團着て寢た東山をのぞみ、特に燃えて身を燒くといふ、大文字山をのぞみみて、陶然となつた事と思ふ。同君の發案で記念撮影をなし、午後十時過和氣靄々裡に散會した突然の開會故欠席者多數ありたるも當日の出席者左の如し（數字は卒業回數）



1 東京外國語學校出身鐘紡京都支店長鈴木正武（小名濱）11 廣島高師京大文科出大谷大學教授立花勝（小名濱）12 四高京大醫科出醫學博士東洋レーヨン病院長矢吹一男（夏井）12 立命館大學文科出京中講師青木淳（好間）20 京大工科出內務省土木技師小野道人（小名濱）24 京大出醫學士辻內科研究室正木信功（錦）27 京大文學部國文科在學中齊藤貞雄（平）28 同宇佐神正康（木戶）29 同高萩精玄（內鄕）30 同作山道男（廣野）12 客員野崎喜八郎氏

尚秋季は山科方面に於て松茸狩の豫定である（凸版は寄せ書）（幹事青木）

不合格を悲觀し 三原山へ死の家出
飯野の青年保護を受く

飯野村遠藤勝平（二二）は數年來の腦病で去月徵兵檢査に不合格となり其後『軍隊へ行かれぬのは殘念だ』と口走つて居たが一昨十二日無斷家出、三原山附近を徘徊中其筋の保護を受けた旨今十四日平署に通知あつたので實父市太郎が身柄引取りに向つた

郡下麥作況
大麥減、小麥增收

郡下の麥作は目下收穫季にあるが平町農會調査による收穫豫想高左の如く大麥は畑の減收百十石であるが田に於て十一石增收のため結局九十九石の減に反し小麥は四十一石の增收であらうと

		作付	豫想	昨年
大麥	田	六一	一三八	一二七
	畑	一一五	二八七	三九七
	計	一七六	四二五	五二四
小麥	田	一一	一九	九
	畑	四一	九〇	四九
	計	五二	一〇九	五八

磐中七劍士
縣下大會前に
先づ濱三郡の爭覇

來る十七日双葉中學校の濱三郡中等學校劍道大會に磐中劍道部左の七劍士は庄司部長引率の下に出席、相中相農、双中、平商を向ふに廻し對戰するが昨年の失策に鑑み縣下大會に於ける制覇を自信し猛練習を續けて居る

大將―五年蛭田末藏（初段）副將―同粟城晃（同）同志賀義一（同）同安藤知（一級）四年伊達賴弘（同）同菊地止（同）同柴田忍（同）

靑訓生勸誘
決定五十名に接近

平青年訓練所の生徒勸誘第三日の昨十三日は

甲班（班長椌村義衛氏、田町、才槌小路、胡摩澤、北目町、久保町、八幡小路方面）では決定三名、同有望三名の不成績だつたが、乙班（班長江尻喜作氏、新川町、正月町、三倉町堤の內、月見町、三倉町方面）では決定十一名、同有望四名

合計決定十四名を獲得前日の分も合せて確實五十名の目標に近づいたので今十四日は同じく甲班は藤井一氏を班長に南町、鍛治町、十五町目、大町、中町方面を乙班は鈴木三郎氏が班長となつて鐵北方面を極力勸誘した

平商生射擊會

平商校四年生一同は明後十六日駒場教官指導の下に神谷村在軍東部實彈射擊場で兵營生活に於て實習した實彈射擊の實演を行ふが同五年生は同三十日及び一日の兩日行ふと

日立電力配電調査

日立電力株式會社では愈々木戶川沿線に三千キロの電力を供給する一大發電所を設置、東部電力と對抗の事業擴張を圖るため目下着々準備を進めて居るが愈々來る廿日より十二月迄双葉郡の木戶村附近の外大野、草野神谷、平、平窪赤井、好間、飯野、內鄕、湯本、磐崎、渡邊、植田、錦、勿來の各町村に亘る電氣工作物の施設に關する調査及測量を開始する事になり今十四日平町地域の土地立入れに關し通知あつた

時局講演會
石坂少將湯本へ

縣並に帝國軍人會福島支會では來る二十四日湯本町小學校に於て時局講演會を催すが講師は參謀本部付陸軍少將石坂弘毅氏及び平井縣社會課長である

靑沼町長上京

靑沼町長は過般來平の飯塚前小名濱町會議員其他一行と共に平小鐵道開通促進に關し種々打合せる處あつたが之れが猛運動を起すべく驛前舖裝工事に關する打合せ其他もあるので今十四日午前五時三十分平發で上京關係筋と折衝したと

折戶海岸埋立指令
江名町仲ノ作港修築

江名町仲ノ作港修築に伴ふ護岸、道路及び荷揚敷地造成のため同町折戶地先公有水面埋立は先頃免許となり去る八日着工したが右は着工の日より參ケ月にて竣功するものであると

農繁の犧牲
幼兒溜桶へ墜死

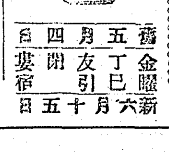
玉川村大字大原字小屋一七農善三郎孫海老根丈夫（二）は昨十三日午前十時頃家內一同が野良稼ぎに出た留守中誤つて自宅裏風呂下の溜桶に轉落溺死した

東京青森間一時間短縮
十二月から實施

來る十二月一日發表の列車時刻改正に伴ふ常磐線のスピードアップは東京、青森間約二時間の短縮を來し當地方の鮮魚輸送に大利便を齎すので當業者一同之を鶴首期待して居ると

十五日

日出 四、二四　月出前 六、四八
日沒 六、五八　月沒後 九、二五
滿潮 前 五、五五 後 八、三〇　干潮 前 一〇、四〇 後 一一、一〇



舊五月四日　金曜　丁巳　友引　閉　婁宿　新六月十五日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　滿山紅葉の錦を以て飾られし如くに美々し▲二黑の人　家事は程好く采配を振ひ他事に心移りすな▲三碧の人　身心を落付け一家家業に努むべき日移轉凶▲四綠の人　家業益々優勢を加ふべき日福祿大に加はらん▲五黃の人　人の爲めに盡せば大に功あり自分事は失敗▲六白の人　面倒なる事の起り勝ちにて一向埒開かぬ日▲七赤の人　ひぼうを受けひん斥せらるゝ行動を戒しむべし▲八白の人　自他共に苦境に立つべき日共同事には注意▲九紫の人　小春日の和やかなる氣分に浸るが如く平穩